

寒波情報（1月6日 11時現在）

前回の情報にも記述したとおり、今後、第1級の寒波が襲来してくる可能性が高くなっています。

1月6日11時現在の気象データに基づき、今回の寒波の特徴と注意点を解説します。

1 今回の寒波の特徴

(1) 12月に入り、北日本では寒気が南下しやすく、西日本では暖気が入りやすい傾向が続いてきました。これは北極振動^{*}によるもので、高度場が北日本で負の領域、西日本で正の領域となっていたためです。

* 北極と北半球中緯度地域の気圧が相反して変動する現象。

詳細は農業気象情報 を参照のこと。

(2) 寒の入りとともに、上空の気圧配置も変化してきており、アリュシアン列島の南にこれまでなかったブロッキング高気圧が発生し、日本から東進する低気圧をブロックする形になってきました。この形になると、日本付近の冬型が持続するとともに、日本全体が負の領域に入るため、北からの寒気が直接流れ込んでくることになり、強い寒気に覆われることとなります。

(3) これまでの傾向としては、寒気の後には急激な気温上昇が起きていましたが、今回の寒波では、(2)で説明したとおり、寒気が持続する形に変わってくる予想です。現時点では、11日の宮崎市で最低1℃、最高12℃になっていますが、寒気の強さから、予報よりも低くなる可能性があります。また、山沿いでは、9日の夜から15日にかけて降雪が予想されるとともに、11日から14日にかけて、高千穂で最低-2℃以下、最高5℃前後、都城で最低-1℃、最高8℃前後が予想されます。

(4) 12日以降については、寒気が持続しながら強弱が見られ、13日に一旦緩むものの、14日から再び第1級の寒波が襲来する可能性が出てきています。最新の情報に注意してください。

2 農作物への影響と対策

(1) 過去の気温動向

昨年10月までは、最低気温が高い傾向が続きましたが、11月には平年並みに近づきました。しかし、12月は1の(1)のように気温の乱高下が目立ち、宮崎市で最低気温が-1 の日や最高気温が20 になる日もありました。

今後はこの傾向が解消し、本来の冬の天候に変わってくるようになります。

農作物の生育環境は、これまでかなり悪い状態が続いてきました。特に最低気温(夜温)が高い日が多かったため、植え付けの時期によっては、農作物の生長が予定外に早まったりするなどの影響が見られています。

(2) 今後の気温傾向

1月11日以降は、平年並みの気温(宮崎市で最低2 、最高12 前後)が予想されますが、11日以降はしばらく平年を下回る気温となりそうです。

その後はまだ予想できませんが、1月末に向かって平年並みかやや低い気温で推移しながら、時々強い寒気が南下してくるのではないかと考えられます。

(3) 寒波対策

12月は平年を上回る気温(+2 程度)でしたが、1月は11日以降、平年を下回る日が多くなってきますので、農作物の寒さ対策が必要になります。特に、最低気温が0 を下回る日も予想されますので、ハウス内の温度管理には十分な注意が必要です。

露地作物については、季節風が強くなるため、千切り大根の乾燥、漬け物用大根の天日干しには好条件となりますが、降霜・凍結には十分注意してください。

3 今後の傾向

2016年の平均気温は、宮崎市で18.6 と平年を1.2 上回り、観測史上過去2番目に高い気温となりました。

年明け以降もその傾向は続いていましたが、1月中旬は平年並みかやや低くなる傾向が見えてきましたので、今後、ようやく冬らしい天候に変わってくるものと予想されます。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二(気象予報士)